

第33回「Qの会」  
研修会開催

11月20日香川大学において「Qの会」第33回研修会が開催されました。今回のメインテーマは「地域でつなげる糖尿病看護」で、シンポジストに、市役所生活支援員・看護師の岡田留理先生「1型糖尿病患児の学校支援を実施している立場から」・在宅医療ネットワーク看護師の二宮美智子先生「1型糖尿病患児への巡回型訪問看護を実施している立場から」・セントケア丸亀居宅ケアマネジャーの吉井純子先生「ケアマネジャーの立場から」・セントケア丸亀ヘルパーの大林美鈴先生「ヘルパーの立場から」・セントケア丸亀訪問看護師の藤本さとし先生「訪問看護の立場から」五人の先生をお迎えし、それぞれの立場から講演がありました。質疑応答では、ヘルパーさんへ低血糖時にできる範囲を教えてほしいという質問があり、ブドウ糖などの補食や点鼻薬の投与も可能であるがケアマネジャーへの情報提供が必要であると回答がありました。

研修会アンケート結果

第33回研修会参加者48名より回答をいただきました。シンポジウムについて「現場の話が聞け、とても学ぶことが出来てよかった。」「他職種の方より講演があったので、どこまで依頼できるのかわかった。」「など良かったと言う意見がありました。今後の研修会のスタイル含め「左右の座席の間隔はとれているのですが、前後がかなり近い（会話しないとはいえず感じがあるので、前列とすらしてもよいかも。」「ブラインドが下まで降りているので、窓が開いているのか？（換気のため）」わからず少し不安だった。室内換気ができているのかもしれません。」「という意見もありました。今後の研修会のテーマについて「患者教育」「心理」「ポンプ療法」「災害」「糖尿病患者の権利擁護」「多職種連携の工夫」「精神疾患を持つ糖尿病患者」などたくさんの方の意見がありました。アンケート結果を参考にし、より良い研修会にしていきます。と思います。

学会・研修会のご案内  
認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

☆第66回日本糖尿病学会年次学術集会

日時：2023年5月11日  
(木) 13日(土)  
場所：城山ホテル鹿児島他  
現地開催+WEB配信のハイブリッド開催

☆第10回日本糖尿病協会年次学術集会

日時：2023年7月22日  
(土) 23日(日)  
場所：国立京都国際会館

☆第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

日時：2023年9月23日  
(土) 24日(日)  
場所：岡山コンベンションセンター・ANAクラウンプラザホテル岡山



研修会風景

香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」  
第34回研修会・2023年度総会のご案内  
日時：2023年6月25日(日) 9時30分から16時30分  
場所：香川大学医学部看護学科305教室  
メインテーマ：「糖尿病看護におけるステイグマとアドボカシー活動」  
講師：香川大学医学部看護学科 基礎看護学准教授 西村亜希子先生

★Qの会ホームページから申し込みお願いします

高齢者の糖尿病ケア

～地域包括ケア病棟での工夫や取り組み～

社会医療法人財団大樹会 総合病院回生病院 糖尿病看護認定看護師 國村昭子

高齢者糖尿病患者さんは、高血糖の状態が長く続くことで認知機能が低下しやすくなりますが、当院の地域包括ケア病棟における取り組みとして①認知症に関して、看護師による認知症スクリーニングを実施しており、認知症が疑われる場合は当院の認知症疾患医療センターへ紹介を行っています。②インスリン注射に関しては、回数や種類の選択などインスリン分能や患者さんの生活状況に合わせ、医師・薬剤師・臨床検査技師・医療ソーシャルワーカーなどの調整役を担い、カンファレンスを行っています。しかし、インスリン注射は施設などの受け入れが難しい場合もしばしばみられ、退院調整に苦慮することもあります。高齢糖尿病患者さんの援助のポイントとして、心理的・身体的・社会的特徴を理解し個人に合った生活技術の獲得方法を考える必要があり、なにより糖尿病と共に生きている人として、今まで患者さんなりに療養を行ってきたことを尊重し関わっていくことが重要です。今後も、患者さんを総合的に捉え生活習慣が形成されるように医療チーム一丸となってサポートを行っていきたく考えています。

◆編集後記

研修会に参加し色々な立場で働いている人々の話を聞くことができました。それにより地域の動きが理解でき、今後の連携がしやすくなったと感じています。今後も色々な研修に参加しそこで得たことを生かしたいと思っています。 小松原たか子・串田久美

発行所 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会

http://www.qnka.or.jp